

拾って、描いて、地球を救え！

私も変わる対話型ごみ拾いプログラム

うみ+ごみ+me



会場 三郷中央におどり公園/プラザ

※集合場所：三郷中央におどり公園（プラザ東側入口）

※集合時間：14時15分～

定員 60名（無料）※申込順

※プログラムの対象年齢は小学校4年生以上となります。

小学校3年生以下の方もご参加可能ですが、

保護者の方のサポートをお願いいたします。

12/19(土)
14:30~16:30

主催：三郷市

協力：issue+design（日本財団の助成を受け、協力しています）

申込み：QRコードから申し込みください



「回収」と「抑制」を同時に行う うみごme とは？



拾っても、拾っても、なかなか減らない海ごみ。その裏側には「ごみ」自体を生み出してしまっている私たちの社会で何が起きているのか、私たち自身がそこに向き合えていないという現実があります。「うみごme」は、身近に落ちているごみを収集し、そのごみからみえてくる私たちの社会の「小さな身勝手さ＝エゴ」を可視化することで、海ごみを生み出している社会構造に向き合うためのプロジェクトです。

ワークショップの流れ



【うみごme 入門編】



STEP 1
身近な
ゴミを拾う



STEP 2
ゴミの状態
から考える



STEP 3
うみごmeで
分類する



STEP 4
自分の暮らし
をふり返る



STEP 5
ゴミになる
気持ちと
お別れする

開催趣旨



三郷市は、江戸川や中川など多くの川に囲まれたまちです。私たちの暮らしから生まれたごみは、川を通じて海へつながっており、海ごみ問題は決して遠い問題ではありません。この「うみごme」では、身近にあるごみを題材に、ごみが生まれる背景や私たちの暮らしとのつながりについて考えます。

対話型ごみ拾いプログラム『うみごme』



当日は、ご参加の皆さまが実際に身近なごみを拾い（体験）、意見を交わしながら（対話）、海ごみ問題を自分ごととして捉え、日々の行動を見つめ直すきっかけとします。

※ご参加の皆さま同士、話し合いや協力が必要なワークがあります。



ワークブックを使い、拾ってきたごみを捨てたときのひとの気持ちで分類していきます。落ちていた状況を振り返りながら、なぜごみが生まれているのかを考えます。



ワークの最後には、1人1つずつ、自分自身の中にあるごみにつながる気持ちを表現し、お別れをする儀式を行います。

プログラム協力 | issue+design

「社会の課題に、市民の創造力を。」を合言葉に、2008年から始まったソーシャルデザインプロジェクト。市民・行政・企業が参加し、地域・日本・世界が抱える社会課題に対して、デザインの持つ美と共感の力で挑む。東日本大震災のボランティアを支援する「できますゼッケン」、認知症の方が生きる世界を見える化する「認知症世界の歩き方」他、行政や企業とともに多様なアプローチで地域が抱える課題解決に挑むデザインプロジェクトを多数実践中。